

小学校6年生調査の結果と考察【国語】

HP公開

1 問題作成のポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視して出題している。

- 「話すこと・聞くこと」について、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考え方と比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかを見る問題が出題された。
- 令和5年度までの調査で課題が見られた内容（「読むこと」文章と図表等を結び付けるなどして必要な情報を見付けること）について状況を確認するための問題（大問3三）が出題された。

◎「成果」と考えられる項目（全国の平均正答率より高く、その差がもっとも大きい）

2 学習指導要領の内容等から

△「課題」と考えられる項目（全国の平均正答率より低い）

分類			区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
					所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体				14	67	68	66.8
学習 指導 要領 の 内容	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項		2	76.6	77.5	76.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項		1	63.1	64.8	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		1	80.7	81.5	81.2
	思考力 判断力 表現力 等	A 話すこと・聞くこと		3	67.9	67.3	66.3
		B 書くこと		3	71.2	71.1	69.5
		C 読むこと		4	57.6	58.4	57.5

分類			区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
					所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体				14	67	68	66.8
評価 の 観点	知識・技能			4	74.3	75.3	74.5
	思考・判断・表現			10	64.8	64.9	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			0	—	—	—
問題 形式	選択式			9	66.0	66.0	64.7
	短答式			3	78.1	78.9	78.5
	記述式			2	58.4	59.7	58.8

【所沢市の結果のポイント】

- ◎「書くこと」においては、平均正答率が全国平均よりも高い。目的や意図に応じて集めた材料を分類・関係付けながら伝えたいことを明確にする力が育まれており、文章構成や表現の工夫に対する理解が深まっている。
- △「我が国の言語文化に関する事項」においては、平均正答率が全国平均よりも低い。語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること、また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解する必要がある。

3 各問題から

【考察】

- ◎ 2 一「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる」問題の平均正答率は全国平均よりも高い。日頃の書く活動において、内容の中心を明確にして内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考える実践を積み重ねた成果が表れていると考えられる。
- △ 3 一「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く」問題は、全国及び県平均よりも低く、無解答率も高い。

4 今後の対策

【「(3) 我が国の言語文化に関する事項」の指導改善のポイント】

○世代による言葉の違いに気付く

年配者と、年少者や若者には、それぞれの世代に特有の言葉遣いがある。それらの存在に気付き、世代間の親近感やつながりを強めるという役割を意識させた上で、例えば、若者の言葉が、使える場合と使うべきではない場合とがあることや、世代によってもものの呼び方が違い、コミュニケーションに食い違いが起きる場合があることを理解しておくことが大切である。

学習指導にあたっては、世代によって呼び方が違うものを集める活動をしたり（「寝巻き」「パジャマ」、「えもんかけ」「ハンガー」など）、異なる世代にインタビューをする活動をしたりしながら、それぞれの世代に特有の言葉遣いがあることを考えられるように指導すると効果的である。

小学校6年生調査の結果と考察【算数】

1 問題作成のポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、解決過程を振り返って概念を形成したり体系化したりする過程を遂行する」という数学的活動を行う文脈を重視した上で、今年度は、以下のような問題が出題されている。

- 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、小数や分数の計算の仕方について統合的・発展的に考察できるかを問う問題
- 日常生活の問題を解決するために、伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係について考察できるかを問う問題
- 日常の事象について、目的に応じて表やグラフからデータの特徴や傾向を捉え考察できるかを問う問題

◎「成果」と考えられる項目（全国の平均正答率より高く、その差がもっとも大きい）

2 学習指導要領の内容等から

△「課題」と考えられる項目（全国の平均正答率より低い）

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
	全体	16	58	58	58.0
学習 指導 要領 の 領域	A 数と計算	8	63.2	63.1	62.3
	B 図形	4	55.1	54.7	56.2
	C 測定	2	53.5	53.9	54.8
	C 変化と関係	3	58.3	57.9	57.5
	D データの活用	5	63.4	63.4	62.6

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
	全体	16	58	58	58.0
評価 の 観点	知識・技能	9	65.5	65.9	65.5
	思考・判断・表現	7	48.5	47.9	48.3
	主体的に学習に取り組む態度	0	—	—	—
問題 形式	選択式	6	67.2	67.6	67.2
	短答式	6	64.7	64.6	64.0
	記述式	4	34.4	33.8	34.9

【所沢市の結果のポイント】

◎「A 数と計算」領域においては、平均正答率が全国及び県平均よりも高い。

△「B 図形」領域と「C 測定」領域においては、平均正答率が全国平均よりも低い。特に、「B 図形」領域は、昨年に引き続き低い。

3 各問題から

【考察】

◎3 (1) 「小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる」問題の平均正答率は、全国並びに県平均よりも高く、無解答率は全国平均より低い。授業において、どの位の単位に着目すれば、既習の整数の加法に帰着できるのかを考察する活動等を通して、共通する単位を捉えさせることができていると考えられる。

△2 (2) 「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問題の平均正答率は、全国並びに県平均よりも低く、無解答率は全国並びに県平均よりも高い。

△4 (3) 「はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる」問題の平均正答率は、全国並びに県平均よりも低く、無解答率は全国並びに県平均よりも高い。

4 今後の対策

【「B 図形」領域の指導改善のポイント】

○図形を構成する要素およびそれらの位置関係に着目し、図形の性質に基づいて図形を弁別できるようにする指導の充実

2 (2) のような問題の指導にあたっては、図形の置き方をいろいろと変えて示されたいいくつかの四角形の中から台形を弁別し、その理由を説明する活動が考えられる。また、台形でない図形についても、図形を構成する要素およびそれらの図形をどのように構成しなせば台形になるのかを考えたりすることができるようにすることも大切である。

【「C 測定」領域の指導改善ポイント】

○はかりの目盛りを読むことができるようにする指導の充実

4 (3) のような問題の指導にあたっては、最小目盛りの大きさが異なるはかりを用いて重さを測定する活動が考えられる。その際、例えば、0 g から 100 g までは何等分されているのかに着目し、一目盛りが表している重さを考えて、一目盛りが表している大きさを捉えることができるようにすることが大切である。

小学校6年生調査の結果と考察【理科】

HP公開

1 問題作成のポイント

学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、「A物質・エネルギー」、「B生命・地球」の2つの内容区分から、バランスよく出題されている。

- 問題を解決するまでの道筋を構想し、根拠のある予想や仮説を発想したり、解決の方法を発想したりするなど、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題が出題されている。
- 事実的な知識を既有的知識と関係付けたり活用したりする中で概念的に理解しているかどうかをみる問題が出題されている。
- 自然の事物・現象に働きかけることで得られた様々な情報について、要因や根拠を見いだすことや、観察、実験などの結果について、その傾向を見いだしたり、考察したりすることができるかどうかをみる問題が出題されている。

◎「成果」と考えられる項目（全国平均正答率より高く、その差がもっとも大きい）

2 学習指導要領の内容等から

△「課題」と考えられる項目（全国平均正答率より低く、その差がもっとも大きい）

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
				所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体			17	57	58	57.1
学習 指導 要領 の 区分 領域	A 区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	46.2	46.6	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	52.6	52.7	51.4
	B 区分	「生命」を柱とする領域	4	51.4	53.1	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	66.8	67.7	66.7

△「課題」と考えられる項目（全国の平均正答率より低く、その差がもっとも大きい）

分類	区分	問題数 (問)	所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
	全体	17	57	58	57.1
評価 の 観点	知識・技能	8	54.5	55.5	55.3
	思考・判断・表現	9	59.8	60.3	58.7
	主体的に学習に取り組む態度	0	－	－	－
問題 形式	選択式	11	55.1	55.1	54.7
	短答式	4	70.5	71.7	69.7
	記述式	2	42.8	46.9	45.2

【所沢市の結果のポイント】

◎「『粒子』を柱とする領域」においては、平均正答率が全国平均を上回っている。学習内容を他の学習や生活と関連付けるよう、授業内で取り上げる場面が増えていると考えられる。今後も、解決の方法を発想することや実験の結果や方法を振り返る場面等を設定し、より妥当な考えをつくり出す活動を続ける必要がある。

△問題形式「記述式」においては、全国及び県平均を下回っている。結果を基に考察し、その理由を表現できるように、結論の根拠は何かを考えることの重要性について意識して授業を改善することが必要である。

3 各問題から

【考察】

- ◎1 (1) 「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く」問題の平均正答率は、全国及び県平均よりも高く、無解答率も低い。授業の観察、実験において、変える条件と変えない条件を整理しながら、実験の方法を考えさせることを実践していることが成果として表れている。
- △2 (4) 「乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ」問題は、全国平均よりも低く、無解答率も高い。

4 今後の対策

【生命領域における「記述式」の指導改善のポイント】

○考えたことを科学的な言葉を使用して表現する

科学的な言葉を使うことを大切にする。例えば、花のつくりを観察するときに、図鑑などと照らし合わせて、おしべやめしべの部位と名称を説明する学習活動、さらに、複数の種類の花を観察し、その共通点として、おしべとめしべを見つける学習活動を行う。

【「エネルギー」領域の指導改善のポイント】

○ものづくりの活動を通して深まる学び

ものづくりの活動は、問題解決の活動の一形態である。児童が明確な目的を設定し、その目的を達成するために行う活動であり、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正するといった活動が大切である。

例えば、本問のように「磁石の性質」と「電気の通り道」など複数の内容を生かしたものづくりの活動をする場合は、児童がつくりたいものを構想する前に、それぞれの内容で習得した知識を整理してまとめるとよい。

中学校 3 年生調査の結果と考察【国語】

HP公開

1 問題作成のポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を発揮する文脈を重視し、今年度は、以下の問題が出題されている。

- 言語活動の充実が図られてきている状況を踏まえ、話合いの中の発言や文章から、目的に応じて必要な情報を取り出したり、目的に応じて文章を工夫して書いたりすることができるか問う問題

◎「成果」と考えられる項目（全国の平均正答率より高く、その差がもっとも大きい）

2 学習指導要領の内容等から

◇今後さらに伸ばしたい項目（平均正答率 50 % を下回っている）

分類			区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
					所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体				14	56	55	54.3
学習 指導 要領 の 内容	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	48.6	48.5	48.1	
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	0	－	－	－	
		(3) 我が国の言語文化にに関する事項	0	－	－	－	
	思考力 判断力 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	4	54.9	54.3	53.2	
		B 書くこと	5	54.0	53.7	52.8	
		C 読むこと	3	64.5	63.6	62.3	
分類			区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
					所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体				14	56	55	54.3
評価 の 観点	知識・技能		2	48.6	48.5	48.1	
	思考・判断・表現		12	56.9	56.4	55.3	
	主体的に学習に取り組む態度		0	－	－	－	
問題 形式	選択式		8	64.9	64.8	63.9	
	短答式		2	74.5	74.0	73.6	
	記述式		4	28.0	26.6	25.3	

【所沢市の結果のポイント】

- ◎すべての領域において、平均正答率が全国及び県平均を上回っている。特に「C 読むこと」の領域では、全国平均との差が2.2ポイントと大きく上回った。授業では、話合いの目的や話題を意識し、話合いの段階を捉えながら話したり聞いたりする活動が充実していることが考えられる。
- ◇問題形式の「記述式」においては、平均正答率が全国及び県平均を上回っているものの、無解答率も高い。

3 各問題から

【考察】

- ◎3 一「表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」問題では、表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることができた成果であると考えられる。
- ◇4 二「読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる」問題では全国及び平均を上回ったが、無解答率が高いことから、場面の展開や人物の心情に即した表現が不十分な解答が多い。

※「情報の扱い方に関する事項」については、今年度の調査では該当する問題の出題はなかったが、文章や発言に含まれる情報の関係を捉える力は、今後の指導において重視すべき内容である。

4 今後の対策

【「記述式」問題への対応力を高めるための指導のポイント】

○文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える

文学的な文章の構成や展開について考えるためには、作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することが求められる。その際、文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをすることが重要である。

【無解答が多かった「短答式」への対応力を高めるための指導のポイント】

○読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整える

書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、文字や表記が正しいか、漢字と仮名の使い分けが適切かなどを確かめて文章を整えることが重要である。その際、書いた文章を読み返す必然性がある言語活動を設定し、既習の事項を生かして文章を整えることができるよう指導することが大切である。

中学校3年生調査の結果と考察【数学】

HP公開

1 問題作成のポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、解決過程を振り返って概念を形成したり体系化したりする過程を遂行する」という数学的活動を行う文脈を重視した上で、今年度は、以下のような問題が出題されている。

- 生徒が目的意識をもって数学的に問題発見・解決する過程を遂行することに配慮した問題
- 学習指導要領第2章第3節数学における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容の問題

◎「成果」と考えられる項目（全国平均正答率より高く、その差がもっとも大きい）

2 学習指導要領の内容等から

◇今後さらに伸ばしたい項目（平均正答率50%を下回っている）

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
	全体	15	52	50	48.3
学習 指導 要領 の 領域	A 数と式	5	46.9	45.0	43.5
	B 図形	4	51.2	48.7	46.5
	C 関数	3	50.9	48.8	48.2
	D データの活用	3	61.3	60.2	58.6

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体		15	52	50	48.3
評価 の 観点	知識・技能	9	57.5	55.7	54.4
	思考・判断・表現	6	43.1	41.0	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0	－	－	－
問題 形式	選択式	3	55.9	56.0	54.0
	短答式	7	55.9	53.2	52.0
	記述式	5	43.3	41.3	39.6

【所沢市の結果のポイント】

- ◎すべての領域において、平均正答率が全国及び県平均を上回っている。特に「B 図形」領域では、全国平均との差が4.7ポイントと大きく上回った。
- ◇「A 数と式」領域は、平均正答率が全国及び県平均よりも高いものの、全領域の中で唯一50%を下回っていることから、今後さらに力を伸ばしていく必要がある。

3 各問題から

【考察】

- ◎ 9 (2) 「統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる」問題と 9 (3) 「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる」問題の平均正答率は、全国並びに県平均を大きく上回っている。これは、授業において、三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりする力を育成するための指導が充実しているものと考えられる。
- ◇ 1 「素数の意味を理解しているかどうかをみる」問題の平均正答率は、全国並びに県平均よりも低く、無解答率は全国並びに県平均よりも高い。

4 今後の対策

【「A 数と式」領域における指導のポイント】

○素数の意味の理解をできるようにする

整数の性質について考察する場面において、整数を様々な視点で分類し、1 より大きい自然数のうち、1 とその数自身以外には約数をもたない数の集合が素数であることを理解できるように指導することが大切である。また、「1 は素数に含まれる」と考える生徒もいることから、その後の学習において素数を用いる際に、1 は素数に含まれないことを再確認する場면을繰り返し設定することも大切である。

○素因数分解することを通して、素数や整数の性質について正しく理解できるようにする

自然数を素因数分解することを通して、素数や整数に対する見方をさらに広げ、素数や整数の性質についての理解を深めることができるように指導することが大切である。小学校算数科では、整数の約数を見いだしたり、約数を基にして、その数は何の倍数であるかを判断したりする活動や、二つの整数について、それぞれの倍数から最小公倍数を求める活動などを行っている。こうした学習を基にして、中学校第1学年においては、自然数を素因数分解することにより、約数や倍数などの整数の性質を捉え直すことができるようにすることが大切である。

中学校 3 年生調査の結果と考察【理科】

HP公開

中学校【理科】は、IRTを用いているため、公表内容が他教科と異なります。
IRT調査の見方については、30・31項を御参照ください。

1 問題作成のポイント

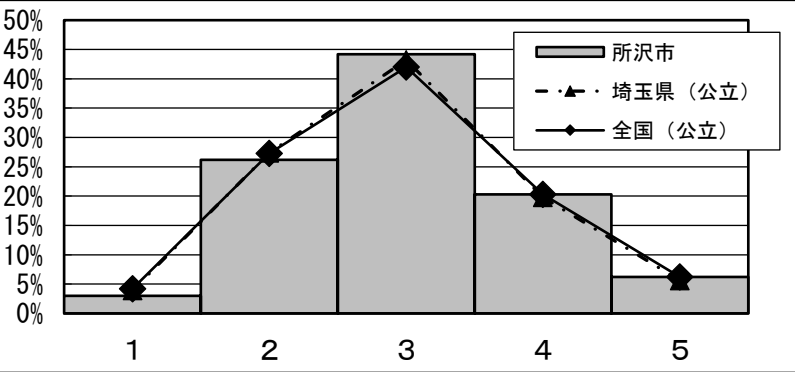
- 学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「日常生活や社会の文脈における事象の中から問題を見いだして課題を設定し、探究の過程を通して課題を解決すること」についての問題が出題されている。
- 「知識・技能」では、自然の事物・現象に関する「事実的な知識」と「知識の概念的な理解」及び観察、実験の「技能」に関する問題
 - 「思考・判断・表現」では、科学的な探究の過程において自然の事物・現象に関する知識を活用することで、思考力、判断力、表現力等を把握する問題、科学的な探究の方法や理解に関する問題

2 学習指導要領の内容等から

平均 IRT スコア

	平均 IRT スコア	*1 標準偏差
所沢市	507	115.3
埼玉県 (公立)	502	120.2
全国 (公立)	503	124.0

IRT バンド



IRTバンド集計値

IRT バンド	生徒数	割合 (%)		
	所沢市	所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
5	139	6.2	5.6	6.2
4	455	20.3	19.8	20.3
3	988	44.2	43.2	42.0
2	586	26.2	27.4	27.3
1	68	3.0	3.9	4.2

◎成果

□改善点

【所沢市の結果のポイント】

- ◎500を基準としたIRTスコアについては、507を示しており、平均正答率が全国及び県平均よりも高いスコアを示している。標準偏差は、全国及び県平均よりも低くなっており、生徒間のスコアの開きが小さいことがわかる。
- ◎生徒ごとに算出したIRTスコアを等間隔に決められた幅に区切ったIRTバンドについては「5」の割合が県の割合よりも多く、「1」の割合が全国や県よりも少ない。

〔*1「標準偏差」とは、データの平均値からのばらつき具合を数値で表した指標です。ばらつきが大きいほど標準偏差は大きく、小さいほど小さくなります。〕

3 各問題から

【考察】

- ◎4 (1) 「プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子からプロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断し、小さい順に並べる」問題の正答率は、全国及び県平均より高く、無解答率は全国及び県平均よりも低い。実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係进行分析して解釈できるよう指導が行われていると考えられる。
- △6 (2) 「牧野富太郎の『サクユリ』のスケッチから、サクユリの【茎の断面図】、【根】として適切なものを判断し、選択する」問題の平均正答率は、全国並びに県平均よりも低く、無解答率は全国並びに県平均よりも高い。

4 今後の対策

【「I R Tバンド」から見る傾向からのポイント】

○学力階層への着目

I R Tバンドが2・3の生徒の実態を分析し、個々の生徒に応じた支援を充実させる必要がある。基礎基本の徹底や既習事項の活用場面や応用の場面設定を行い、I R Tバンドが2→3、3→4へとステップアップできるように授業展開をすることが大切である。

【「生命」領域における指導のポイント】

○単子葉類と双子葉類の葉・茎・根の外部形態と内部形態の特徴を、関連付けて捉えることができるようにする

身近な植物の外部形態や内部形態の観察を行い、観察記録などに基づき、共通点や相違点があることを見いだして、植物の体の基本的なつくりを理解することが大切である。植物の体のつくりについては、第1学年では身近な植物の外部形態の観察を行い、第2学年では植物の内部形態の観察を行って、種子植物の葉・茎・根の基本的なつくりの特徴を見いだすことになっている。その際、花のつくりや葉脈の形状、茎のつくり、根のつくり等の共通点や相違点に基づいた分類表などを作り、植物の体のつくりを理解することが大切である。